

**研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム（START） 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援**

2022年度採択プラットフォーム

令和3年度補正予算 実施報告書

「Peace & Science Innovation Ecosystem」

2024年12月11日

I. プラットフォーム名、主幹機関、共同機関 等

| | |
|-----------|---|
| プラットフォーム名 | Peace & Science Innovation Ecosystem(PSI) |
| 主幹機関 | 広島大学 【総括責任者】 広島大学 学長 越智 光夫 【プログラム代表者】 広島大学 副学長(産学連携担当) 大学院医系科学研究科・教授 田原 栄俊 |
| 共同機関 | 岡山大学、島根大学、愛媛大学、※徳島大学、※高知大学、※香川大学、 ※鳥取大学、広島市立大学、歴啓大学、県立広島大学、※広島修道大学、 ※安田女子大学、※岡山理科大学、※川崎医科大学、※周南公立大学 |
| 評価対象の活動期間 | 2022年6月15日～2023年3月31日 |

※評価対象の活動期間中は未参画である。

II. 活動の概要

中国・四国地域最大規模のスタートアップ支援ファンドである「PSI・GAPファンドプログラム」を立ち上げ、公募・審査、課題支援等の運営についても中心になって進めた。

GAPファンドプログラムの申請に向けて、学内研究シーズの掘り起こしを行った。各参画大学において、説明会、学内周知活動、起業に関心を持つ研究者に対する直接的なアプローチを行った。その結果として、参画大学(7大学)より研究者48名が当該GAPファンドプログラムに応募し、そのうち19名が採択された。

GAPファンドプログラムに採択された研究課題を次のステージに移行できるよう、必要に応じてVC等をメンターとして配置した。

また、申請したものの採択に至らなかった研究者についても、VC等とのメンタリングの機会を設定し、事業化に向けた悩みを解決できるように努めた。

2023年3月20日に広島大学「きてみんさいラボ」を会場(ハイブリッド開催)として、2022年度のGAPファンドプログラム採択者によるDemo Dayを実施し、主幹機関である広島大学を中心に運営を行った。Demo Dayには63名が参加した。広島大学を窓口として個別に面談を設定した。

III. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに対する貢献

スタートアップ・エコシステム拠点都市【推進拠点都市】に選定されている広島地域イノベーション戦略推進会議は、広島型イノベーション・エコシステムのコンセプトとして、「平和都市として世界に知られる広島は、あらゆる社会課題の解決を目指し、未来に向けて、世界の人たちに、元気・勇気を与えるイノベーションを生み出していくエコシステムを構築します。」を掲げて、イノベーション立県として、「新しい産業が生まれ育ち、社会経済情勢や市場の動向に、柔軟かつ的確に対応できる状態」の実現を目指している。

本補正事業では、中国・四国地域最大規模のスタートアップ支援ファンドである「PSI・GAPファンドプログラム」を新規に立ち上げ、48件の申請の中から19件の課題を採択することにより、新たな事業化に取り組む研究者を支援するとともに、各研究機関における大学発ベンチャー創出の機運を盛り上げた。

さらに、本補正予算により、広島地域における「広島大学きてみんさいラボ」の整備、愛媛大学における3Dプリンターの購入、島根大学における3Dプリンター、MAXHUB(オールインワンミーティングボード)の購入、県立広島大学におけるアクアポニックスシステム一式の購入を行ったことや、各大学において関係規則の見直しを行ったこと等により、各地域の起業環境を整備した。

このように、プラットフォーム内の各地域における事業化を支援することにより、スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに貢献した。

2. 起業活動支援プログラムの運営

本プラットフォームでは、以下の図1に示すように、プロセスI～Vまでの起業活動段階に応じた切れ目がない起業活動支援プログラムを実施することにより、スタートアップの創出を強力に支援することを目指しており、本補正予算では、プロセスIIIに相当する、中国・四国地域最大規模のスタートアップ支援ファンドである「PSI・GAPファンドプログラム」の新規立ち上げと運営を実施した。48件の申請の中から19件の課題を採択することにより、新たな事業化に取り組む研究者を支援するとともに、各研究機関における大学発ベンチャー創出の機運を盛り上げることができた。

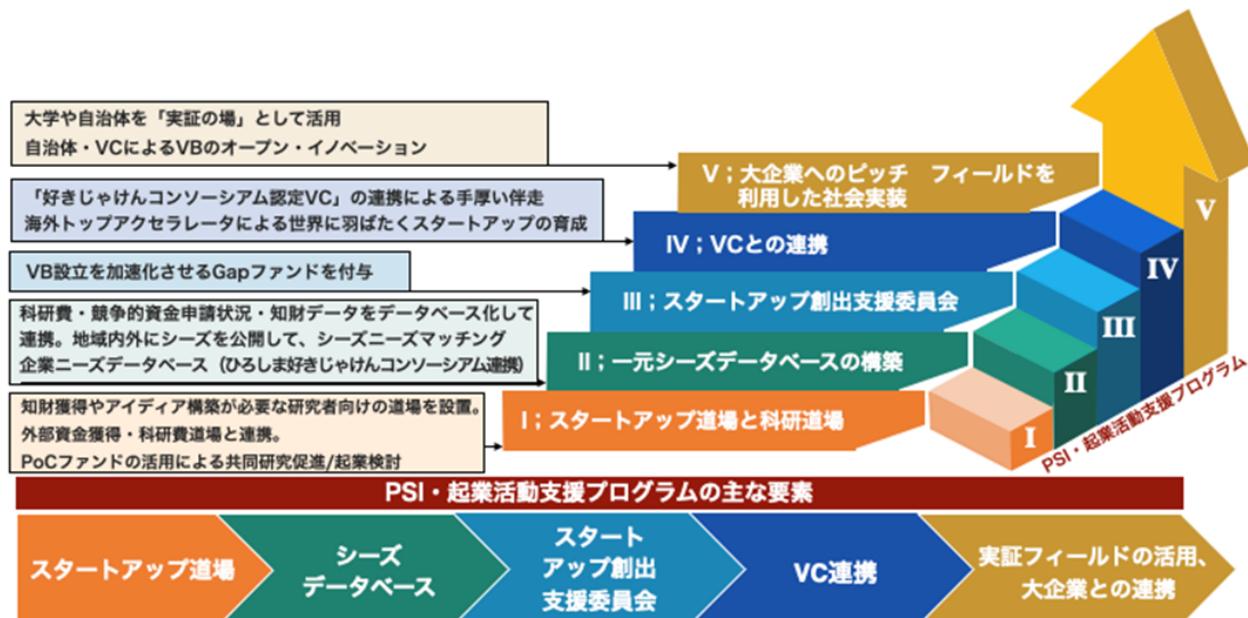


図1 起業活動支援プログラムの外観図

GAPファンドで支援した19課題のうち、3課題が起業に至った。また、2課題が2024年度中に起業予定である。起業予定案件については、2024年度に「大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム」で行うPSI・GAPファンドによる支援を検討する。起業済みの3課題については以下の通りである。

<起業済案件>

・株式会社Gush

(研究開発課題名:磁界バイアスプローブ方式による高精度ウェアラブルブレインマシンインタフェース 研究代表者:樋脇治)

・株式会社Walkable Future

(研究開発課題名:下肢閉塞性動脈疾患に対する新しい血管再生治療薬の事業化にかかる検証活動 研究代表者:外山研介)

・株式会社Medswell

(研究開発課題名:Medical-EdTech(薬剤師学習支援システム) 研究代表者:牛尾総一郎)

3. 起業環境の整備

各大学において、起業に向けた相談窓口の設置や関係諸ルール等の整備について対応を検討した他、Slack等を活用することで、必要に応じて各大学間で相談内容を共有して、協力して解決できる体制を構築した。

また、各大学において、必要な設備機器を購入する等、起業活動の場の整備を行った。

取組事例として広島大学で実施した事項については以下のとおりである。

(広島大学における起業に向けた相談窓口の設置や関係諸ルール等の整備)

- ・他国立大学の諸規程や関係諸ルールなどの調査を行い、学内における諸規程や関係諸ルールの新設や改正案に係る検討を行った。
- ・起業体制整備・運用が進んでいる大学の諸規程等を比較する中で、本学既存規程・運用上脆弱な点や本学での支援のための学内リソース不足などの課題・改善点を整理した。
- ・また、PSI参画機関として共同機関に情報を提供し、すべての大学が起業に際して十分な規程を備えるようマネジメントを実施する。

(広島大学における設備機器等の整備やその運用)

- ・2022年10月16日に、JR広島駅(広島市南区)南口のオフィスビル「広島JPビルディング」に、起業活動の場として「広島大学きてみんさいラボ」を開所した。広島駅に直結する立地を活かして、研究成果の発信や、企業・VC・他大学等との打ち合わせ等に積極的に活用した。また、GAPファンドプログラムのDemo Dayについても、当該ラボで実施した。
- ・当該ラボの他にも、MIRAI CRIE(東広島キャンパス)、Hiromalab(広島市中心部)、SENDA LAB(東千田キャンパス)など、急速にイベントスペースやコワーキングスペースの整備が進んでおり、起業活動の場が充実しつつある。
- ・その一方で、研究者や学生に十分な周知が行き届いていないという課題があり、今後さらに積極的な活用を推進していく必要がある。前述のように様々な施設が活用でき、それぞれに特徴があることを案内できるようにする。